

特別優秀賞

いなかっぺいな

香川県 白方小学校 三年
眞鍋 結名

わたしの住んでいる白方地区しらかたは、田んぼや畑が多い、しぜんがたっぷりの地いきです。

お父さんは、3年前から畑をかりてやさい作りをするようになりました。おおさかで生まれて、育ったのもおおさかなので、やさいなどを作ったことはありません。何もかもがはじめてで、何からすればいいのかもわかりません。インターネットで調べて、ひつような道具を買いました。畑の草を草かりきでかり、くわでたがやし、うねを作っていると、農家のおじさんが来て、

「あんた、何作るんな。まだうえる物きまってないんやったら、あまっとるトウモロコシのなえをあげようか。」

と声をかけてくれました。お父さんは、

「まだ何もきめてないんですけど、トウモロコシのなえ、いただいてもいいですか。」

と答えました。おじさんは、すぐになえを持ってきてくれました。うえるときのうねの高さや間かくや、育て方を教えてくれました。うえた後も、ときどき畑のようすを見てくれました。

「この葉の様子だと、ひりょうが足りてないから、ついひせないかんで。」

「アワノメイガがつくきん、よぼうしなよ。」

とアドバイスをしてくれました。でも、お父さんが、

「できれば、む農薬で作りたいんです。」と伝えると、

「む農薬で作るんは、むずかしいでな。でも、それをやるんなら、じゅふんした後に花を切りおとして、実にネットをかけてみな。」

と、む農薬で作りたいお父さんの気持ちを大切にしてくれました。その年の夏、む農薬で育てた、あまいトウモロコシがとれました。

教えてくれるのは、このおじさんだけではありません。ほかの農家のおじさんも、そら豆やえんどう豆のたねをくれたり、育て方のアドバイスをしてくれたり、とれたてのやさいを分けてくれたり、やさしい人が多いです。

わたしは、やさいがすきではありませんでした。でも、お父さんが家族のためにむ農薬で作ってくれて、それを作るために、いろんなアドバイスをしてくれる農家のおじさんたちのやさしさがつまったやさいを食べるようになってからは、やさいがすきになりました。

「いつも親切にしてもらいっぱなしで、もうしわけないです。」

とお父さんが言うと、農家のおじさんは、

「わかい人が畑にきょうみを持ってくれることが、わたしはうれしいのです。」

と言って、わらっていました。

わたしは、やさしさがいっぱいの白方が大好きです。まわりの人にやさしくしたり、大きな声であいさつをしたり、わたしのできることでやさしさを広げていきたいと思います。